

平成27年度前期全学教育機構「学生による授業改善アンケート」の結果

評価分析室全学教育機構分室

全学教育機構では、平成27年度前期に中間アンケートを行い、学生の要望を確認し、後半の授業が行われた。本結果は、期末に実施されたものによる。

平成27年度前期期末「学生による授業改善アンケート」は、以下の2とおりの方法により実施された。

- a. 総合人間科学系所属の各教員が担当する授業について授業中に用紙に記入する。
- b. 全授業題目を対象としてウェブ上で記入する。

アンケートの質問項目は、用紙・ウェブともに以下のとおりである。

＜アンケート質問項目＞

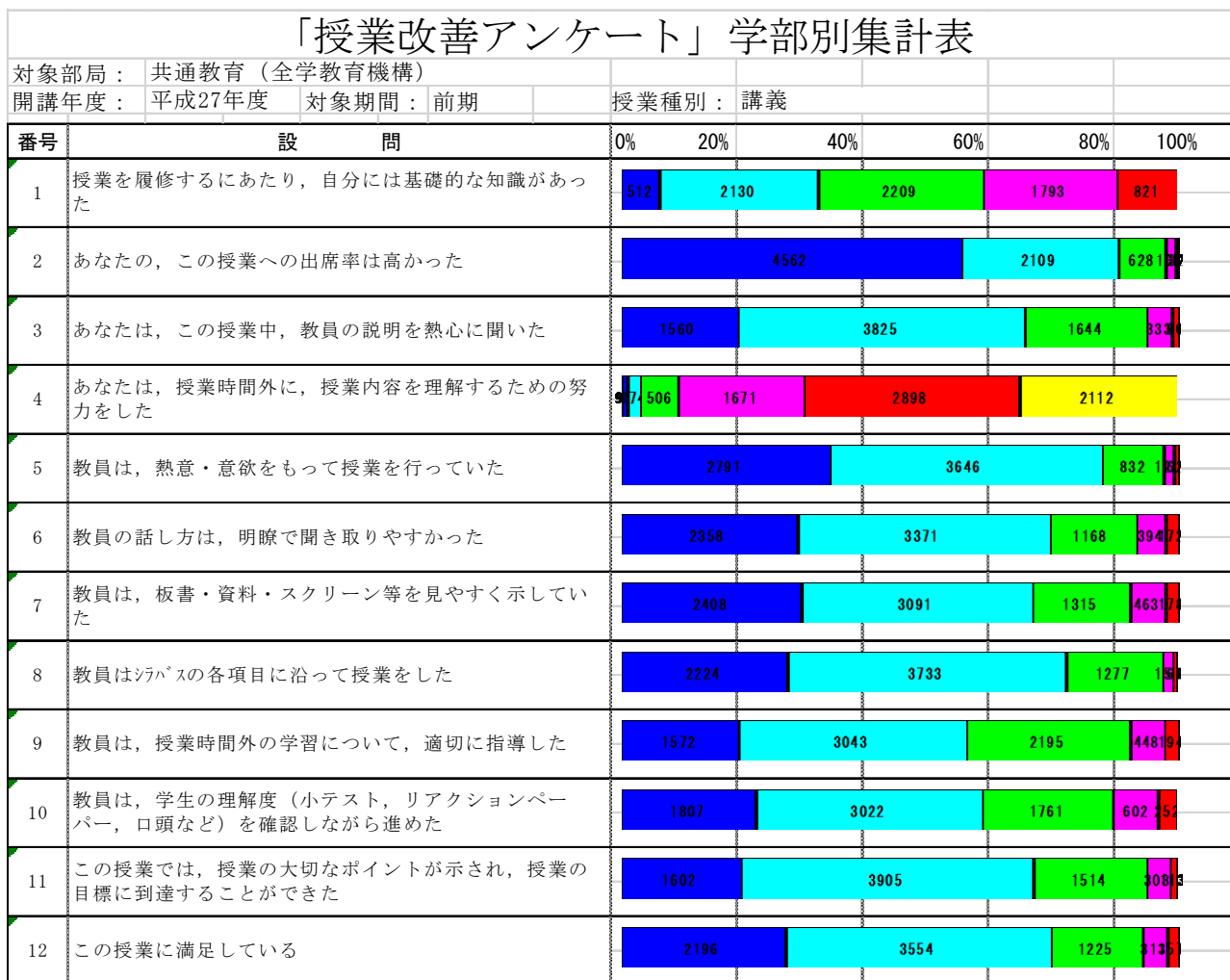
1. この授業を履修するにあたり、自分には基礎的な知識があった(5択)
2. あなたの、この授業への出席率は高かった(5択)
3. あなたは、この授業中、教員の説明を熱心に聞いた(5択)
4. あなたは、この授業時間外に、授業内容を理解するための努力をした(予習・復習等)(6択)
※4.の選択肢(週4時間以上, 週3~4時間, 週2~3時間, 週1~2時間, 週1時間未満, 全くしない)
5. 教員は、熱意・意欲をもって授業を行っていた(5択)
6. 教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすかった(5択)
7. 教員は、板書・資料・スクリーン等を見やすく示していた(5択)
8. 教員は、シラバスの各項目に沿って授業をした(5択)
9. 教員は、授業時間外の学習について、適切に指導した(シラバスでの参考文献の提示等)(5択)
10. 教員は、学生の理解度(小テスト, リアクションペーパー, 口頭など)を確認しながら進めた(5択)
11. この授業では、授業の大切なポイントが示され、授業の目標に到達することができた(5択)
12. この授業に満足している(5択)
13. この授業について、改善すべきと思う事、教員が工夫をしていると思う事、その他、意見、要望等がありましたら、書いてください(自由記述)

アンケートの結果は、部門長および評価分析室機構分室員が内容について検討・解析した。以下に回答について、科目群ごとにその結果を報告する。(用紙を使ったアンケートの結果についても、ウェブに取込して集計されている。)

1. 全体に関する結果

紙媒体によるアンケート実施クラス数を増やしたので、今年度（2015年度）前期の機構授業に対する授業改善期末アンケートの回答率は、2014年度前期の数字と対照させる（2014年、2015年の回答率の順序）と、講義全体：50%，54%，演習全体：41%，49%，外国語全体：46%，79%，実験・実習全体：56%，76%へと、全ての科目群で増加した。期末アンケートの講義科目，演習科目，外国語科目の集計結果は，図1～3の通り。

図1【講義科目】



青：強くそう思う，水色：そう思う，緑：どちらともいえない，ピンク：そう思わない，赤：全くそう思わない

※4.の選択肢のみ 青：週4時間以上，水色：週3～4時間，緑：週2～3時間，ピンク：週1～2時間，赤：週1時間未満，黄色：全くしない

図2【演習科目】

「授業改善アンケート」学部別集計表							
対象部局： 共通教育（全学教育機構）							
開講年度： 平成27年度		対象期間： 前期		授業種別： 演習			
番号	設 問	0%	20%	40%	60%	80%	100%
1	授業を履修するにあたり、自分には基礎的な知識があった	83	306	584	381	160	
2	あなたの、この授業への出席率は高かった		1132	274	87		
3	あなたは、この授業中、教員の説明を熱心に聞いた	566	724	189	14		
4	あなたは、授業時間外に、授業内容を理解するための努力をした	256	190	432	498	293	
5	教員は、熱意・意欲をもって授業を行っていた	620	720	148	19		
6	教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすかった	583	685	201	16		
7	教員は、板書・資料・スクリーン等を見やすく示していた	538	672	253	19		
8	教員はシラバスの各項目に沿って授業をした	554	691	234	11		
9	教員は、授業時間外の学習について、適切に指導した	406	631	377	722		
10	教員は、学生の理解度（小テスト、リアクションペーパー、口頭など）を確認しながら進めた	378	586	439	802		
11	この授業では、授業の大切なポイントが示され、授業の目標に到達することができた	425	783	270	13		
12	この授業に満足している	603	670	189	17		

青：強くそう思う、水色：そう思う、緑：どちらとも言えない、ピンク：そう思わない、赤：全くそう思わない

※4.の選択肢のみ 青：週4時間以上、水色：週3～4時間、緑：週2～3時間、ピンク：週1～2時間、赤：週1時間未満、黄色：全くしない

図3【外国語科目】

「授業改善アンケート」学部別集計表							
対象部局： 共通教育（全学教育機構）		開講年度： 平成27年度		対象期間： 前期			
				授業種別： 外国語			
番号	設 問	0%	20%	40%	60%	80%	100%
1	授業を履修するにあたり、自分には基礎的な知識があった	500	2424	1569	684	415	
2	あなたの、この授業への出席率は高かった		3181	1641	561	182	
3	あなたは、この授業中、教員の説明を熱心に聞いた	1472	3036	879	605		
4	あなたは、授業時間外に、授業内容を理解するための努力をした	543	571	2081	2302	443	
5	教員は、熱意・意欲をもって授業を行っていた	2526	2615	3775	5		
6	教員の話し方は、明瞭で聞き取りやすかった	2234	2492	629	186		
7	教員は、板書・資料・スクリーン等を見やすく示していた	1824	2490	1004	226		
8	教員はシラバスの各項目に沿って授業をした	1706	2698	1055	928		
9	教員は、授業時間外の学習について、適切に指導した	1704	2613	1062	173		
10	教員は、学生の理解度（小テスト、リアクションペーパー、口頭など）を確認しながら進めた	1984	2610	783	149		
11	この授業では、授業の大切なポイントが示され、授業の目標に到達することができた	1416	3049	940	139		
12	この授業に満足している	1860	2739	746	64		

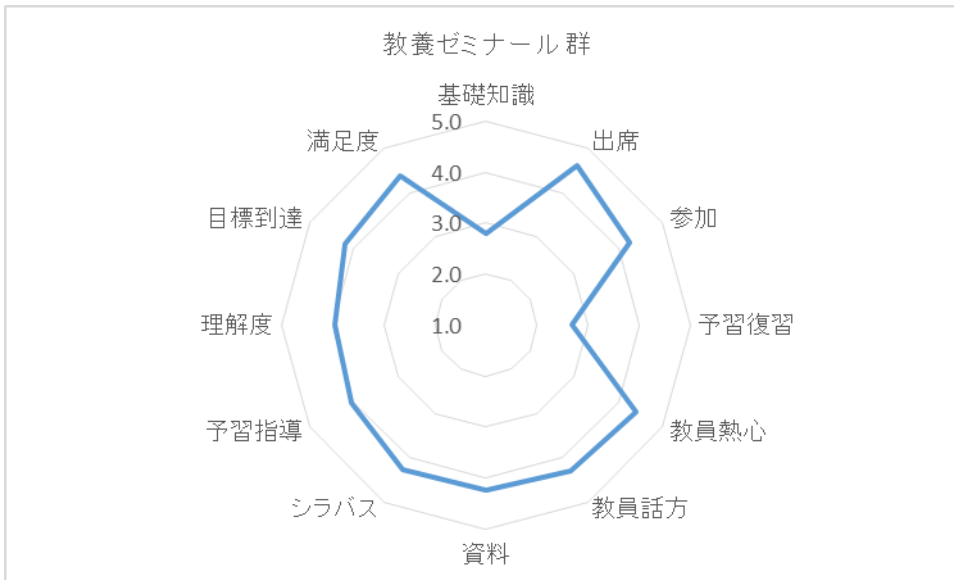
青：強くそう思う、水色：そう思う、緑：どちらとも言えない、ピンク：そう思わない、赤：全くそう思わない

※4.の選択肢のみ 青：週4時間以上、水色：週3～4時間、緑：週2～3時間、ピンク：週1～2時間、赤：週1時間未満、黄色：全くしない

2. 教養科目

[教養ゼミナール群]

他の科目群と比較した場合、設問 1 から 4 の学生の自己評価、設問 5 から 12 の授業評価のいずれも平均より少し上の値を示している。同じ演習科目である新入生ゼミナール科目と比較すると、設問 1 から 4 に関しては同等であるが、設問 5 から 12 に関しては全てにおいて、教養ゼミナール群の値が高い。アンケート回収率も新入生ゼミナールよりもかなり高い。



[環境科学群]

環境科学講義科目はすべての科目の平均的な傾向にほぼ一致している。授業の受講者数と満足度との間には明瞭な相関関係は認められないが、大人数授業でありながらかなり高い満足度を得ている場合があり、授業においてよい工夫がなされていることがうかがわれる。学生の予習・復習の実施状況に関しては、著しく低く、とくに後期において何らかの工夫が必要である。教員による予習・復習指導のポイントと、学生自身の予習・復習実施のポイントの間にはある程度の相関が認められるので、教員が予習・復習を促す余地があるものと考えられる。



[人文科学群]

当該科目群の[講義]科目の総平均値は 4.10 で、講義全体の総平均値 (3.98) に比して、やや高いが、相対的には大きな差はないとみてよい。他方、教員による予習指導 (3.83) の取り組みに対して、学生による予習復習 (1.90) の状況は看過できない。これは当該科目群のみならず講義全体共通して言えることであり、早急に対応策を講じる必要がある。アクティブ・ラーニングの重要性が指摘される今日、基礎知識 (2.67) の欄と並行して検討を要すると言えよう。



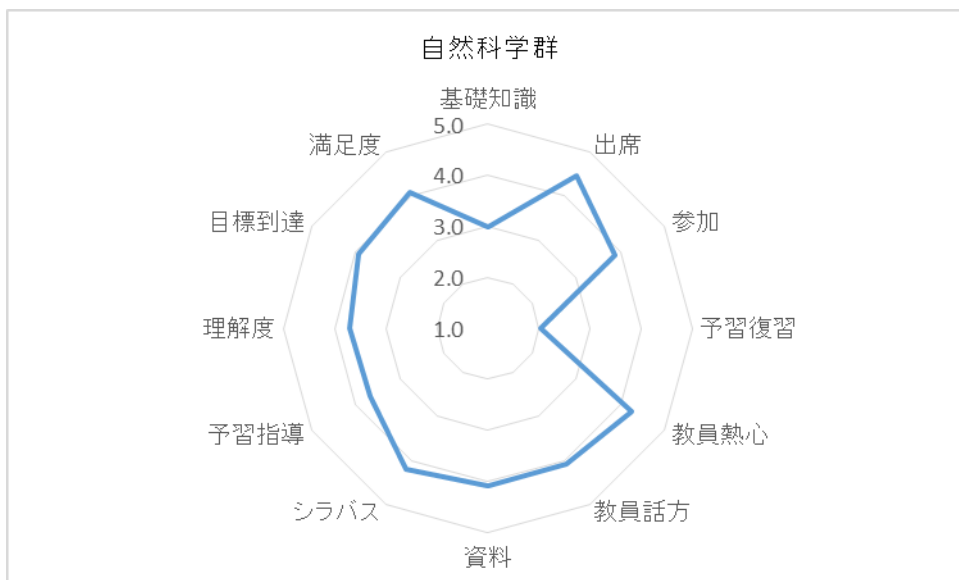
[社会科学群]

当該科目群の[講義]科目の総平均値は 4.06 で、講義全体の総平均値 (3.98) を上回っているが、相対的には大きな差はないとみてよい。他方で、予習復習のカテゴリーの項目が 2.22 となっており、当該カテゴリーが全体の平均値を結果として下げる結果となっている。これについては全科目群共通した課題となっているため、予習復習の重要性を具体的に喚起することだけでなく、学生の時間外学習に対して指導の方法の在り方自体を再検討する必要がある。



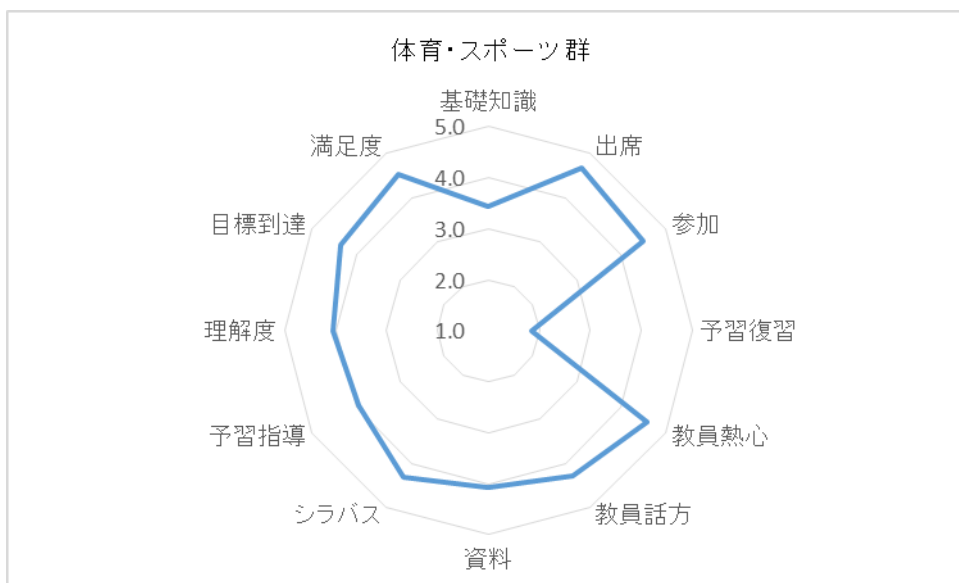
[自然科学群]

自然科学群講義科目では、傾向はすべての科目の平均的な傾向とほぼ一致しているが、昨年度と比較するとやや低下している。授業によっては、大人数授業であると同時に、学生が目立って高い満足感・達成感を得ている授業があり、教員により工夫と努力がなされていることが伺える。学生の予習・復習の実施状況に関しては、著しく低く、後期授業において改善が必要である。



[体育・スポーツ群]

体育・スポーツ群は、設問 4 の学生の予習・復習を除く全項目で全授業の平均を下回っていない。とくに、目標到達度、満足度に関して、全科目の平均値を上回っており、教員の努力がうかがえる結果となっている。学生の予習・復習、教員による予習・復習の指導に関する値が低く出ている点は体育・スポーツという科目の特性によるものであると思われる。



3. 外国語科目

[英語]

英語1年次総括

授業改善アンケート回答者数 3,657 名(受講対象者数 4,032 名)の総括

1. 受講生自身の評価(出席率(4.5)・熱心度(4.0))は例年並みに非常に高い。そして 2. 英語1年次担当教員に対する評価および講義への評価も高い—教員の意欲・熱意に対する評価(教員の熱心度(4.4))・授業の進め方に対する評価(話し方の明瞭さ(4.2))・資料の見やすさ(4.1))。その結果、英語科目(英語1年次)に対して、受講者は概ね満足しているようである(満足度(4.1))。

その一方で、満足度に比して、授業時間外の学習(4.0)と目標到達度がわずかながら低い(4.0)。さらに、その2点においては、クラスごとにかかなりのバラつきも見られる。

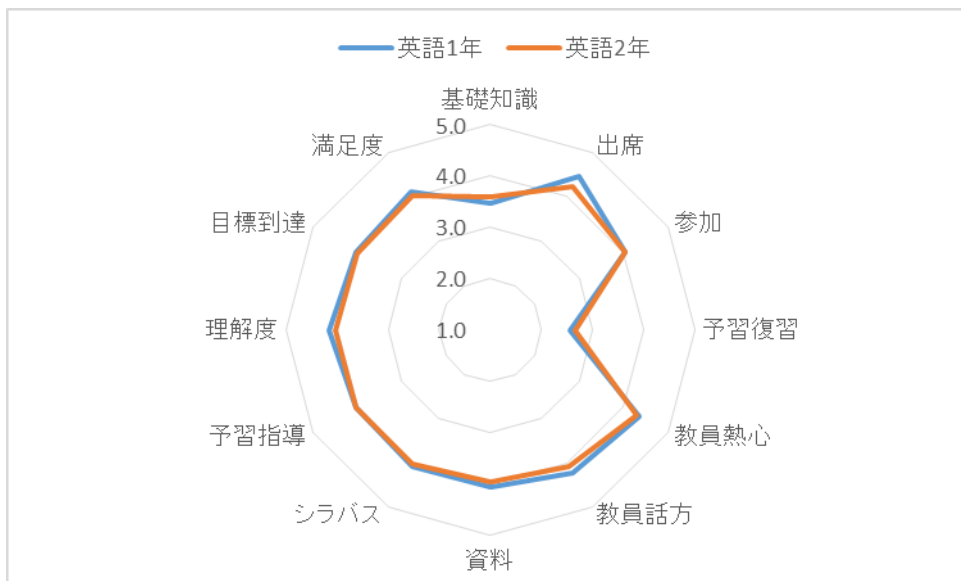
受講者は英語科目について授業自体には意欲的に取り組み、講義への満足度も高いものの、授業時間外の学習の不足や予習および復習の指導不足もあって掲げている目標に到達しきれていないことが読み取れる。

英語2年次総括

授業改善アンケート回答者数 1,238 名(受講対象者数 2,062 名)の総括

1. 受講生自身の評価(出席率(4.2)・熱心度(4.0))はやや高い。そして 2. 英語2年次担当教員に対する評価および講義への評価は、前年度に向上し、今年度も評価は高い—教員の意欲・熱意に対する評価(教員の熱心度(4.3))・授業の進め方に対する評価(話し方の明瞭さ(4.1))・資料の見やすさ(4.0))。英語科目(英語2年次)に対しての満足度もやや高く(満足度(4.0))、講義自体には概ね満足しているようである。

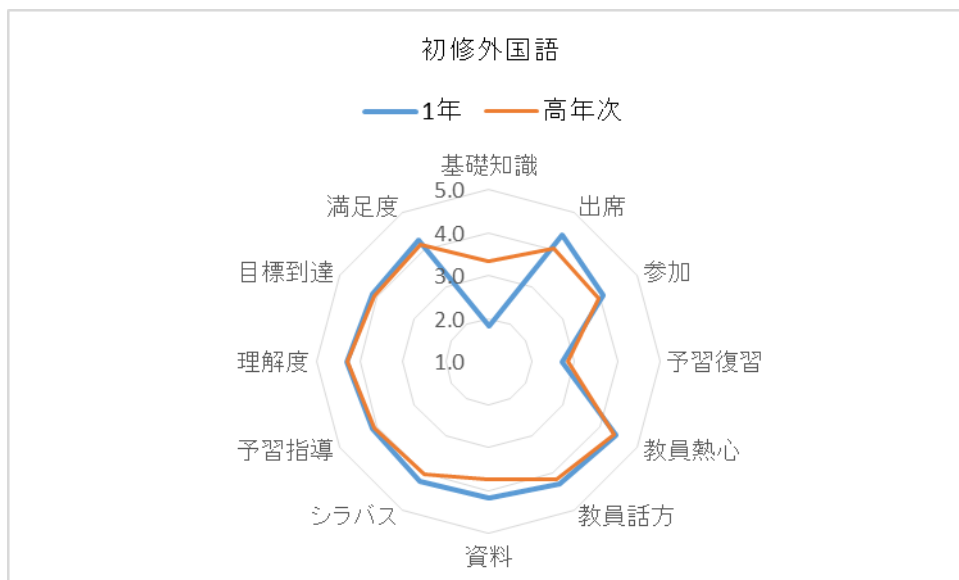
しかし、1年次英語同様に、目標到達度がわずかながら低い(4.0)のは課題である。意欲を持ち学んでいる学生が設定する目標に到達するような「学び」を、担当教員は工夫しつくりあげる必要がある。



[初修外国語]

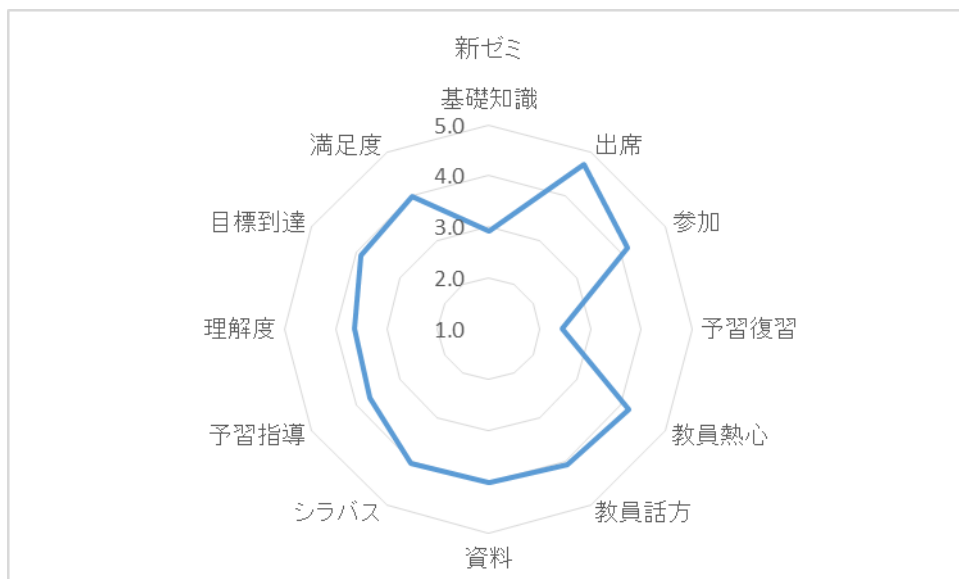
ほとんどの学生にとって、初修外国語は大学で初めて習う科目であるので、設問1の数字が低いのは当然であろう。授業への取り組み・態度という観点からの設問2,3,4,に対する初修外国語の数字はそれぞれ、4.4, 4.1, 2.7で、授業への参加度が反映していると思われる設問2,3は4点台である。しかし、科目の特徴から言っても必要であると思われる予習・復習の点が2点台であるのは問題である。

設問5~12の授業への評価はいずれも4点台で、学生の満足が得られる授業が行われていると思われる。



4. 新入生ゼミナール科目

新入生ゼミナール科目は、学部、学科、学系などにより、それぞれ独自の内容、形態で実施されているため、平均値をもとに全体の傾向を議論することが適切かどうか分からないが、数値からは、学生の出席率が高く、どの項目も演習型授業としては概ね平均的ないし若干低めの評価となっていることが読み取れる。アンケートの回収率は37%と低調である。



5. 基礎科学科目

他の講義科目と比べると、学生の基礎知識や予復習にかかる時間が比較的多い一方で、学生の満足度がやや低い。科目の性格上、修得が難しく満足度が得にくいという事情もあるかもしれないが、それと同時に教員側の諸項目（熱心度、話し方、資料の見易さ、シラバス）が全体的に低く評価されている点にも留意すべきと思われる。実験の授業は、学生がよく出席し、熱心に取り組んでいるようすが窺える。



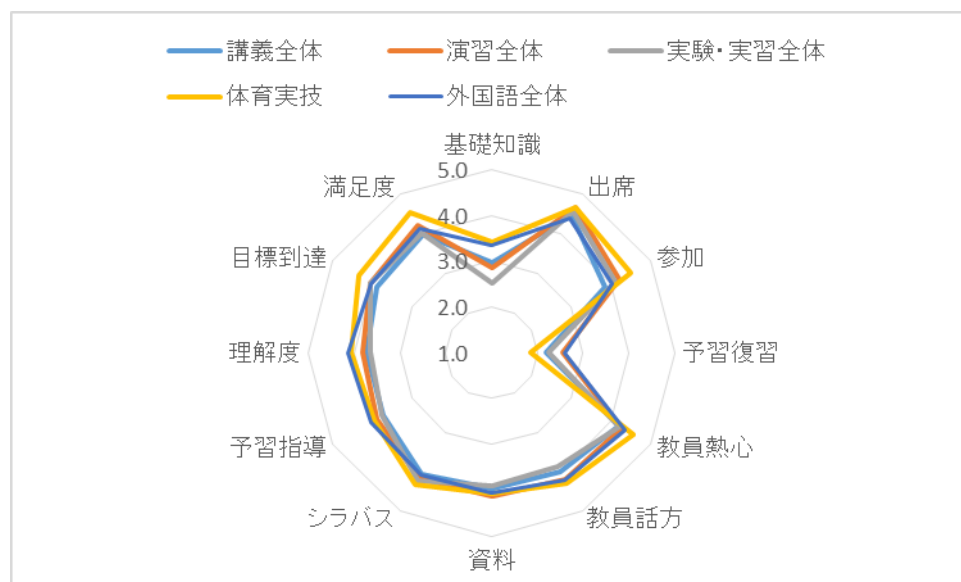
6. まとめ

今年度新たに設けた設問 1 の学生の基礎知識は、初修外国語の値が 1.8 と低いのは当然としても、他の科目群においても 2 から 3 と低めである。これは、大学の授業内容が高校までの学習内容の単なる延長ではない、改めての学習態度の必要性を感じているからと思われる。高大接続的指導の必要性を感じさせる数字である。学生の自己評価である出席率と熱心度は昨年と大差ないが、設問 4 の予習復習は全科目にわたって、昨年よりかなり低い値になっている。予習復習を強く促す指導が求められていると考えられる。

設問 5 から 12 の授業評価に関しては、教員の熱心度・話し方、資料の見やすさ、シラバスに沿った授業、目標到達度、予習復習指導が昨年と大体同じで、予習復習指導は昨年同様 3.6 から 4.1 と低めである。学生の予習復習自己評価が低い値であることから、予習復習指導の一層の強化が必要である。満足度が昨年よりやや低い値である。今年度新たに設けた理解度の確認も、予習復習指導同様重要な点検項目であるが、低めである。予習復習指導同様一層の強化が求められていると思われる。

アンケート結果に基づいて、各部門から以下の意見が出された。

環境マインド教育部門からは、講義科目がほぼ平均的値を示しているが、中には大人数授業において高い満足度を得ているものがあるという結果報告がなされる一方で、予習復習指導の値が低いことが検討課題であるという自己評価がなされた。人文社会学教育部門からは、予習復習を行わせることと、目標到達を実感させる授業改善の必要性の指摘がなされた。自然科学教育部門からは、明瞭で聞きやすい講義を行うように授業を改善していくことの努力目標が報告された。健康科学教育部門は、体育系授業の特性上、基礎知識、予習復習が低い値になるという結果報告に次いで、今後は、時間外学習を含めた学習成果を成績評価基準に盛り込む、また、スライドや資料を用い、基礎知識の教授に努めるなどの改善案を出した。英語教育部門では、授業内容については、つねに小テストなどを実施して学生の理解度をチェックしながら授業を進めるように留意している、と報告された。



共通教育授業改善アンケート(2015前期期末)平均値一覧																
集計区分		受講登録者数 (人)	回答者数 (人)	回答率	設問1 学生の 基礎知識	設問2 学生の出席率	設問3 学生の熱心度	設問4 学生の 予習復習	設問5 教員の熱心度	設問6 教員の話し方	設問7 資料の見易さ	設問8 シラバスに 沿った授業	設問9 予習・復習 指導	設問10 理解度の 確認	設問11 目標到達度	設問12 満足度
教養ゼミナール群	演習	1170	796	68%	2.8	4.6	4.3	2.7	4.4	4.3	4.2	4.3	4.0	4.0	4.2	4.4
環境科学群	講義	3036	1639	54%	2.8	4.5	3.9	1.8	4.3	4.2	4.2	4.2	3.8	3.9	4.1	4.2
人文科学群	講義	2148	1198	56%	2.7	4.4	3.9	2.0	4.3	4.1	4.1	4.1	3.8	3.7	3.9	4.1
社会科学群	講義	2445	953	39%	2.7	4.5	3.9	2.2	4.3	4.1	4.1	4.0	3.8	3.8	4.0	4.1
自然科学群	講義	2779	1462	53%	3.0	4.5	3.9	2.0	4.3	4.1	4.1	4.2	3.7	3.7	3.9	4.1
体育・スポーツ群	体育実技	531	384	72%	3.4	4.7	4.5	1.8	4.6	4.3	4.1	4.3	3.9	4.1	4.4	4.5
外国語	英語1年	4032	3657	91%	3.5	4.5	4.0	2.6	4.4	4.2	4.1	4.1	4.0	4.2	4.0	4.1
	英語2年	2062	1238	60%	3.6	4.2	4.0	2.7	4.3	4.1	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0	4.0
	初修外国語	749	531	71%	1.8	4.4	4.1	2.7	4.4	4.3	4.2	4.2	4.1	4.3	4.1	4.3
	初修外国語(高年次)	171	143	84%	3.3	4.0	4.0	2.8	4.4	4.1	3.7	4.0	4.1	4.3	4.1	4.1
新入生ゼミナール科目	演習	1930	722	37%	2.9	4.7	4.2	2.4	4.2	4.1	4.0	4.1	3.7	3.6	3.9	4.0
基礎科学科目	講義	2965	1999	67%	3.3	4.5	3.8	2.7	4.0	3.6	3.5	3.8	3.6	3.7	3.7	3.6
	講義(高年次)	532	248	47%	3.6	4.2	3.9	2.8	4.1	4.0	3.9	4.1	3.9	3.8	3.9	3.8
	実験・実習	134	99	74%	2.4	4.5	4.1	2.0	4.2	3.8	3.9	4.2	3.7	3.6	4.0	3.9
	実験・実習(高年次)	23	21	91%	2.9	5.0	4.3	3.4	4.4	4.2	4.0	4.4	4.1	4.0	4.3	4.5
講義全体		13905	7499	54%	3.0	4.5	3.9	2.2	4.2	4.0	4.0	4.1	3.7	3.7	3.9	4.0
演習全体		3100	1518	49%	2.8	4.7	4.2	2.6	4.3	4.2	4.1	4.2	3.9	3.8	4.1	4.2
外国語全体		7014	5569	79%	3.3	4.4	4.0	2.6	4.4	4.2	4.0	4.1	4.0	4.1	4.0	4.1
実験・実習全体		157	120	76%	2.5	4.6	4.1	2.2	4.2	3.9	3.9	4.2	3.8	3.7	4.1	4.0
体育実技		531	384	72%	3.4	4.7	4.5	1.8	4.6	4.3	4.1	4.3	3.9	4.1	4.4	4.5